

日本を
ダメにした
九人の政治家

浜田幸一

講談社

日本を
ダメにした
九人の政治家

浜田幸一

講談社

著者略歴

一九二八年（昭和三年）九月五日、千葉県富津町に生まれる。一九四五年、木更津中学（現・高校）を卒業、日本大学に進学し、中退。一九五五年、二十七歳のとき富津町町会議員に当選。その後、県会議員を経て一九六九年に衆議院議員となる。農林政務次官、防衛政務次官など歴任。一九七九年には、自民党国民運動本部長となる。一九八〇年、「ラスベガス賭博事件」で衆議院議員を辞職、一九八三年に再び衆議院議員に当選。一九八七年、衆議院予算委員長に就任、翌年二月に「宮本顕治殺人者発言事件」で同委員長を辞任。その後、自民党広報委員長など歴任し、一九九三年六月、衆議院議員を引退。

現在は、『政治活動家』として活躍中。著書には『弾丸なき抗争』『不肖ハマコーがゆく』『実力者に問う!!』がある。

日本をダメにした九人の政治家

一九九三年十二月 九日 第一刷発行
一九九四年一月二十九日 第八刷発行

著者——浜田幸一
はまだこういち

装幀——鈴木成一

©Koichi Hamada 1993. Printed in Japan

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。



発行者——野間佐和子 発行所——株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目一二二 郵便番号一一二一〇一
電話 編集〇三—三九七—一三六七 販売〇三—五五五—三六五
印刷所——慶昌堂印刷株式会社 製本所——株式会社若林製本工場

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えします。

なお、この本についてのお問い合わせは

生活文化第三出版部あてにお願いいたします。

ISBN4-06-20679-X (生活文化三)

定価はカバーに表示してあります。

日本をダメにした九人の政治家 ● 目次

第一章 腐敗ふはいの張本人なだたちは直ただちに辞やめよ

散ざり際わを心得る桜のように 14

性根くきの腐くさった悪者政治家たちは辞職を 16

自民党への屈辱くつじよく的な判定 18

ひれ伏してお詫わびをすべきだった 21

日本一の悪タレ政治家、ハマコー 22

九人のうち自ら身を引いたのは自分だけ 24

国会をダメにした「足たして二で割る政策」 27

日本の生存にかかわる問題 29

大手を振る「欲望の論理」 30

「裏金」で法案がおっている 32

共産党の「百条憲法」は許せない 36

自民党はモスクワから千五百点の証拠を入手 37

「茶坊主議員」に何ができるか 39

細川首相の「明言」に期待したい 40

腐敗物・小沢一郎のもとでは二大政党制はあり得ない 42

「親の首をとって相続争い」 44

小沢一郎の抜け目のないところ 46

社会党にも腹を切らなければならない人がいる 47

このままでは自民党は次の選挙でも敗ける 49

勝ち目のない自民党から脱党者が続出する 52

思い上がった「官」と「財」は許せない 53

「官」は御しやすい新勢力をとる 55

企業献金など欲しくない 57

制度を変えても必ず腐敗はおこる 58

指揮権発動内閣になるか 61

汚れた者同士の喧嘩からは何も生まれない 62

第二章 中曽根、竹下の「院政」政治が諸悪の根源

「渡辺総裁」を阻んだのは親分の中曽根 66

部下でも後輩でも平気で切り捨てる男 68

中曽根の「渡辺つぶし」の謀略 70

日本新党と中曽根の奇妙な関係 74

「派閥ぐるみ買収」事件の真相 75

言うことと、やることがちがう宰相 78

中曽根臨調・民活の本当のところ 80

リクルート事件の本質は深いところにある 83

財界がなぜ、こぞって関与した世界平和研究所 86

東南アジア担当の私的経済顧問は何者？ 89

私が田中角栄から聞いた話 90

総裁の座を金で売り買いたした大罪 91

「バッジはいつ、おはずしに？」 93

自民党は闘争理念を忘れてしまった 95

金丸逮捕の真相 97

「金竹小」ではなく「竹・金小」 100

ラスベガス事件で金丸さんに弟子入り 103

皇民党事件の発端^{ほうたん}は創政会 106

「ハマコーは危ないから気をつけろ」 108

「供述」のうそ 110

皇民党事件の背景 111

中曽根の安倍つぶし 114

竹下院政の手法 116

死者の霊に恥じないのか 118

第三章 三塚博よ、誰よりも先に辞職を

こんな男が政治改革本部長とは！ 122

「金丸、竹下以上のワル」 125

第四章 宮沢・梶山と小沢、そして田辺の罪状

代議士以前からゼネコンと関係 128

国鉄を食い物に 131

仙台駅前国鉄用地払い下げ疑惑 132

福島交通、佐川急便との密な関係 133

上野駅構内の東北ツアーズ 135

男湯と女湯の関係と同じ 137

中川一郎急死時の三塚の裏切り行為 139

福田元総理に躍おどらされて 141

裏切りのダブルパンチ 144

中川一郎を殺したのは誰か 146

他人がバカに見えてしょうがない人 154 152

とにかく人の話に耳を貸さない宰相

あと追い政策の「名人」 156

無責任な傍観者^{ほうかん}

159

「私がやるんです」という、うそ

161

結局「嫌われる日本」をつくってしまった

163

自民党の腐敗部分を見せた幹事長の「功績」

165

親分を自己保身で有罪にしてしまった張本人

166

梶山静六は見かけとはちがう小心者

168

羽田孜は見かけとはちがう頑固者^{どくだんせんこう}

170

独断専行で自民党をダメに

174

落選経験が人間を変えた

176

金の使い方が下手な梶山、上手な小沢

177

金を受け取る相手も問題だ

180

社会党幹部で潔白なのは土井たか子だけ

182

「(社会党委員長に)五千万円届けるように」

182

億単位の金が動いた

184

私が渡したのだから、間違いない

185

連立与党の中にも辞めるべき人が

187

金丸―田辺から梶山―村山へ 188

「外交」は食事から、そして金へ 191

ハマコーを証人喚問してください 193

親分の首を平気で取る非情な男 195

人の道にはずれることを平気でやる 200

小沢一郎が表舞台に出られないわけ 198

清濁併せ飲^{せいだくあわ}んでしまった男 201

新たなフィクサーが登場 203

五億円を配分したのは誰? 206

偽証の疑いをどうする 207

第五章 一人独裁の宮本顕治は、即みそぎを

予算委員長辞任に暴力団が関与? 212

「国破れて山河^{くにやぶ}もなし」 213

「稲川会に鍛^{きた}えられた」 215

予算委員長にしてくれたのは金丸夫人 217

「殺人者・宮本顯治君」発言の真相 219

ハマコーが共産党と同意見とは許せない 225

原因は共産党委員にあった 226

発言の機会を奪おうとしたのは共産党側 232

これが凄惨^{せいさん}なりンチと言えないのか 234

れっきとした殺人ではないのか 236

責任をとらない一人独裁の共産党 238

国民のみそぎを受けない政治家が日本をダメに 239

議事録から削除の要求が 241

「バカ！ もう死んじゃえ」 243

共産党にはうしろめたい気持ちがあつたはず 245

一日も早く「腐敗分子」を切り捨てよ 247

あとがき 249

日本をダメにした九人の政治家

第一章

腐敗ふはいの張本人たたちは直ただちに辞やめよ

散り際を心得る桜のように

桜の花はなぜ美しいのか――。

それは、己の散り際を心得ているからだろう。

風に誘われてハラハラと散っていく桜の花の下で饗宴に打ち興じれば、若きには青春の息吹を、壮年には明日への活力を、老いには憩いをもたらししてくれる。人々は散りゆく花びらを浴びながら、富めると貧しきの区別もなく、心開かれ、豊かなひとときを感受することができ

る。

すでに凋み、茶色に変色して腐りかけているのに、なお未練たらしく枝にしがみついているようでは、桜の花とは言えない。

平成五年（一九九三年）七月の解散・総選挙に際し、私は立候補をとりやめた。

いまだに「なぜ？」との質問が多い。私を権力欲のかたまりかなにかのように思っていて、それが「あつさり引退したため」に意外に感じておられるのか。あるいは、「国民にとって、わかりやすい政治」を心がけてきた「ハマコー」を惜しんでくださる声だとしたら、身に余る光栄だが……。

平成五年三月三十一日、政治改革法案を党議決定することになっていた自民党総務会の席